

105-272

問題文

54歳女性。152cm、48kg。高血圧、脂質異常症、深在性皮膚真菌症の治療のため処方1と処方2の薬剤を服用していた。その後、深部静脈血栓塞栓症を発症し、その治療のため処方3が追加となった。

(処方1)

アムロジピン口腔内崩壊錠 5 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
イトラコナゾール錠 100 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
	1 日 1 回 朝食直後 14 日分

(処方2)

イコサベント酸エチル粒状カプセル 900 mg	1 回 1 包 (1 日 2 包)
	1 日 2 回 朝夕食直後 14 日分

(処方3)

ワルファリンカリウム錠 1 mg	1 回 3 錠 (1 日 3 錠)
	1 日 1 回 朝食後 7 日分

PT-INRを治療目標域に到達させるため、ワルファリン投与量の調節を試みたが、PT-INRが3.0～6.0で推移し、コントロールが困難であった。医師は患者や薬剤師と相談し、薬物動態関連遺伝子の多型を検査することにした。

問272

多型を検査すべき遺伝子として、適切なものはどれか。1つ選べ。

- 1. *CYP2C9*
- 2. *CYP2C19*
- 3. *CYP2D6*
- 4. *UGT1A1*
- 5. *NAT2*

問273

遺伝子多型検査の結果、ホモの変異を有することが判明し、医師は代替薬について薬剤師に相談した。医師に提案すべき抗血栓薬として最も適切なものはどれか。1つ選べ。

- 1. アビキサバン錠
- 2. シロスタゾール錠
- 3. ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩カプセル
- 4. チクロピジン塩酸塩錠
- 5. リバーロキサバン錠

解答

問272：1問273：1

解説

問272

ワルファリンの薬効に遺伝子多型が影響する薬物代謝酵素は、CYP2C9 及び、VKORC1 です。

以上より、正解は 1 です。

問273

ワルファリンの代替薬なので、アピキサバン、ダビガトラン、リバーロキサバンなどが考えられます。シロスタゾール、チクロピジン「抗血小板薬」なので、不適切と考えられます。

ちなみに

抗血小板薬と、抗凝固薬ですが、共に血をサラサラにする薬という点では共通しています。

血栓症の発生に関して、「動脈」では血小板が、「静脈などで血液が滞るために起こる血栓症」では凝固因子の働きが重要です。そのため、深部静脈血栓塞栓症である本問の患者に対しては、抗凝固薬であるワルファリン等が用いられていると考えられます。

ダビガトラン（ブラザキサ）、リバーロキサバン（イグザレルト）ですが、共にイトラコナゾールとの併用が禁忌です。P-gp 阻害により、血中濃度上昇し、出血リスク上昇が知られています。また、ブラザキサについては、深部静脈血栓塞栓症について、本試験時点において適用がありません。

従って

提案すべき抗血栓薬は、アピキサバン（エリキュース）と考えられます。

以上より、正解は 1 です。